

宿縁

二月号

浄土真宗
本願寺派

康

TEL 〇四七―三七二―〇二九二
FAX 〇四七―三七二―〇二六二

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

あらゆる人々と

共に歩むのが仏道



新年を迎えたその日に起きた震度7の能登半島地震は、大規模な災害をもたらして、いまだその被害の全容がつかめない極めて深刻な状態にあります。

被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

我が家のルーツは同じ能登地方ですから日々に情報が伝えられるたびに、またいろいろなことが思い起こされています。

一つに「能登はやさしや土までも」と古くから言われています。

能登の厳しい自然環境で生きていくため、支えあい心豊かに暮らしてきた能登人の強

さとやさしさを表した言葉です。

この原点は元禄時代、加賀藩士の朝加久敬の旅日記「能登浦伝」の中で記されたものによると言われている説があります。

久敬が険しい海道に難儀していたとき、道すがら綱とる馬子の愛らしい笑顔に出会ったこと。泊った宿主が「今日ほめでたい節句だから」と草餅と桃酒を振舞われたもてなしに、「能登はやさしや土までも」が、本当にその通りだと旅日記に残してあるそうです。

いま一つは「能登のとと楽」という言葉です。

これは能登の女性はよく働くことから旦那衆は楽しているというのです。男は酒造りに出稼ぎに行くから女は家業を守るために働くということです。因みに「加賀のかか楽」と続く言葉があります。加賀のおかみさんは天下の城下町でいい着物を着て美味しい食べ物に事欠かないという意味だそうです。

母方の祖母は私が中学生のころまで存命して、芯がある強い女性を感じましたが、子ども心に優しい人でもありました。母がよく話していたのは「父は政治に関心を示す人で家を空けることが多く、田畑に精を出し家の切り盛りは母がしていた。そして仏法を大切にしたら人生は舅さんの影響が大きかった」と話していました。

そんな祖母が子どもの私に能登弁で話しかけていた方言の面白さを覚えていました。

＊「だちやかん」（駄目だよ、いけません）

＊「だら」（馬鹿）

＊「なーんもや」（いいえ）

＊「ほうや」（そうです）

何かしらこうした方言からも、暖か味を感じていたものです。

時代の移り変わりは激しく、昨今町には以前のような銭湯（お風呂屋さん）はほとんど無くなってしまいましたが、大半は北陸、それも能登出身者が多かったものです。そしてその作りは豪華な唐破風の玄関屋根でした。何故なのか？

郷里のお寺の屋根を模したそうです。それはお寺は身近に在って、いつでも誰でも参れる場所、なぜなら仏法を説く本堂はみんなが平等に救われていく教えの場だから、銭湯も同じくみんなが分け隔てなく裸になれる平等な場所だからです。

銭湯へ行った経験を持つ人は思い起こしてみてください。脱衣所も洗い場も湯船も、そこには年寄りも若いものも幼きものも赤ん坊もみんな同じ場所を共有していましたよね。

子どもが湯船ではしゃいだりすると他人のお年寄りによく叱られたものです。

あの風景は、お寺で代々仏法を聞いた大地に生まれ育った能登人が、それを忘れぬようにと生業であるお風呂屋の屋根をお寺と同じ唐破風か千鳥破風にしたのだと聞いたことがあります。

世間の人は未だにお経は「死んだ人」にばかり向けるもの「ぐらいにしか思っていません

が困ったものです。お経は釈尊の説かれた永遠普遍の真理、人間の本来に生きる道（法）ですからこの私へのメッセージです。

釈尊がこの世にお生まれになられた時代（二千五百年ほど前）も、今の時代も人間の争いや愚かさは変わりません。それどころか人間の闇と愚かさの度合いは深く罪業は増すばかりです。それは真理の教え（光）に効果が無いのではなく、教え（光）に背を向き続けるこちら側の問題です。

お経をお勤めする最後には、どんな宗派でも次の言葉で締めくくられています。

『願以之功德 平等施一切 同發菩提心 往生安樂国』

（願わくは この功德をもつて 平等に一切に施し 同じく菩提心を發して 安樂国に往生せん）

人間の闇を打ち破る真理の光（教え）は、常に生きとし生けるすべてを包んでいるのだから、その光（教え）に出遇ったものは自分心のものの見方が打ち破られて、共に存在するいのちへの目覚めから、共に生きようと願う歩みをするのである。これが仏教です。

いまNHKの朝ドラ「ブギウギ」が好評です。このドラマの始まりはお風呂屋さんからのシーンでした。戦中戦後と活躍したブギの女王、笠置シズ子さんの人生をドラマ化した作品ですが、混乱する時代の中にあつて常に大衆とともにあり続けた主人公の生き方は、とかく感動を失い、なんとなく日々を過ごしている現代人にとって刺激を与えてくれる内容です。

罹災されている方々の窮状に心を寄せつつ一日も早い復興を心から念じましょう。

【寺灯雑記】

○元旦、本堂にお念仏の声響く

1／1

初日の出の柔らかな陽射し輝くなか、元旦修正会をお勤めし、新年を迎えられた慶びを阿弥陀さまに報告いたしました。

新年早々、正信偈を唱和する声が本堂に響き、続いて住職と前住職がそれぞれ年頭法話を致しました。その後は、門徒総代さんのご発声でご流盃の儀を行い、新年をお祝いいたしました。

本年も阿弥陀さまのおこころをお聞かせいただき、念仏申す日々を共に歩んでいくと思います。



○婦人会、壮年会が年次総会開催

1／12、1／28

婦人会と壮年会がそれぞれ年次総会を開き、今年度の活動方針や会計予算などが協議され、原案通りに承認されました。

今年は両会に新会員が加入され、幸先の良い一年の始まりとなりました。総会後は新年会が行われ、さらなる懇親を深めるとともに、今年度の活動への意欲を新たにしました。

婦人会・壮年会は、新規会員を随時募集中です。どうぞ、お気軽にお問い合わせください。

○能登半島地震災害義援金について

一月一日に発生した能登半島地震はマグニチュード7.6を記録し、甚大なる被害状況はニュースなどを通じてご存じのことと思います。

中原寺では「中原寺ふれあい募金」より、被災地の復興支援を目的として、早速に本願寺派たすけあい運動募金宛てに左記の義援金をお送りいたしました。

＊中原寺ふれあい募金より 三十万円
引き続き募金箱を設置しておりますので、ご協力のほど宜しくお願い致します。

＊郵便振替口座番号

00110・6・740059

加入者名 中原寺ふれあい募金

○毎月宿縁の発送作業にご奉仕

毎月、皆様にお届けしている宿縁の発送には、婦人会有志のかたのお手伝いをいただいています。有難うございます。



【お仏壇の火にご注意】

先日、お仏壇のロウソクが原因で火災が起きたとのニュースがありました。お参りする前にロウソク立てを洗い、受け皿の部分に水分が残っていたことで、火のついたロウソクの芯が30センチも飛ぶことがあるそうです。

お仏壇でのお参りが終わったら、ロウソクの火は消しましょう。また、お線香を供える場合、私たちの宗派では香炉の大きさに合わせて、お線香を折り、必ず横にしてお供えします。お仏壇での火のお取り扱いには十分ご注意ください。

【法座・行事のご案内】

○婦人会法座

＊二月三日(土) 一時 (御文章を学ぶ)

末代無智章 (五条第二通) 前住職

○子育てサロン(パンダっ子)

＊二月十三日(火) 十一時～十四時

子育て中の親子の交流の場です。

昼食を用意しています。

○常例法座

＊二月十八日(日) 一時

講師 村上弘樹師(海老名市市自然寺)

○門信徒会役員会

＊二月十八日(日) 三時半

ご欠席の役員のかたは、お寺まで事前にご連絡ください。

○壮年会法座

＊二月二十三日(祝) 三時

七高僧について 住職

尚、四時より聞法会館にて在宅専門医として知られる上田医院の院長上田聡先生をお招きし、現在の医療体制とこれからの医療の形、介護についてお話を聞きます。壮年会以外の方で関心を持たれ参加希望の方はお申し出ください。

○無量寿経解説(親鸞セミナー)

＊二月二十四日(土) 二時

テキスト 浄土三部経(現代語版)

講師 前住職

本年一月から浄土真宗の根本經典「仏説無量寿経」を学ぶことになりました。

毎月第四土曜日(原則)の二時～四時までです。お気軽にお出かけください。

【今月の掲示板のことば】

助からないと

思っても

助かっておる